

東京15区  
(江東区)で  
88,507票

## 小選挙区で3期目当選のご報告

# 「身を切る改革」は 財政再建の第一歩

維新の党 政調会長 衆議院議員 **柿沢未途**  Vol. 19



が、そうした逆境をはね返して、組織票相手に8万8507票もの得票を頂いたのは、江東区の

皆様の私に対する大きなご期待の表れと感じております。今回、維新の党政調会長として衆院選のマニフェスト（公約）を作りました。突然の解散で自分の選挙準備もままならない中、政策の内容からキャッチフレーズ、デザインや図表にいたるまで、その一切を突貫工事でやり遂げました。「アベノミク

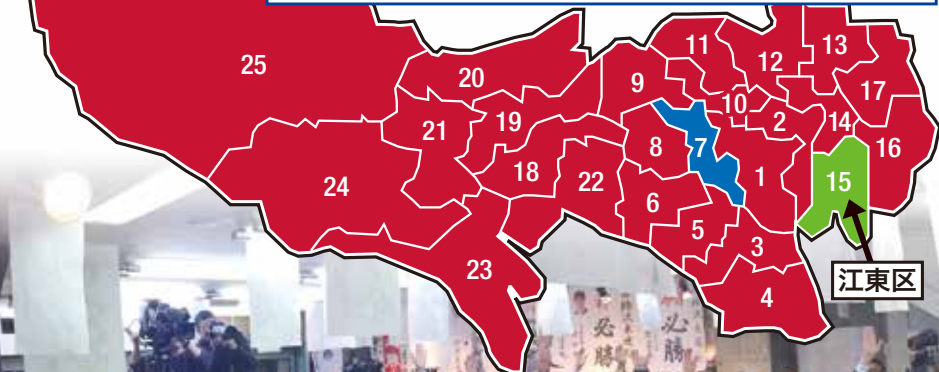
スの評価と問題指摘が的確にできている」（経済評論家の山崎元氏）と高い評価を頂き、序盤は「議席半減も」と苦戦が伝えられた維新の党が終盤に支持を広げ、41議席を確保する結果に繋がりました。とりわけ有権者の共感を得たのは「身を切る改革」だったと思います。それもそのはずで、国民には増税のご負担をお願いしながら、願っている側の国会議員は約束だった定数削減も行なわず、議員歳費は下げどころか上げているのですから。



維新の党 2014 衆院選マニフェスト

衆院選で3期目の当選を、今回も小選挙区で果たしました。都内25小選挙区で与党側が23議席を占め、野党側はたったの2議席となりましたが、そのうちの1つを私、柿沢未途が勝ち取らせて頂きました。過去最低だった前回投票率を8%も下回り、有権者の約2人に1人しか投票に行かない苦しい選挙でした

衆院選東京都 25 小選挙区 政党別獲得議席  
■自民・公明 ■民主 ■維新 ※数字は選挙区



中面に続く→



昨年4月に上がったのは消費税。5月に上がったのは議員歳費。しかも月額約26万円、年額約420万円も増額しています。国家公務員給与も7年ぶりの引上げ、年末のボーナスは11%もの増額となりました。支払い原資は国民が納めた税金です。これでは「何のための増税だったのか」と言われてしまいます。

政府は「復興財源へ充当するための特例的な削減期間（2年間）が終了したため」と説明していますが、巨額の赤字を出し続けている会社が給与やボーナスを増やすのは民間の常識では考えられません。赤字を出している会社なら、まず経営者が自らの役員報酬をカットして、

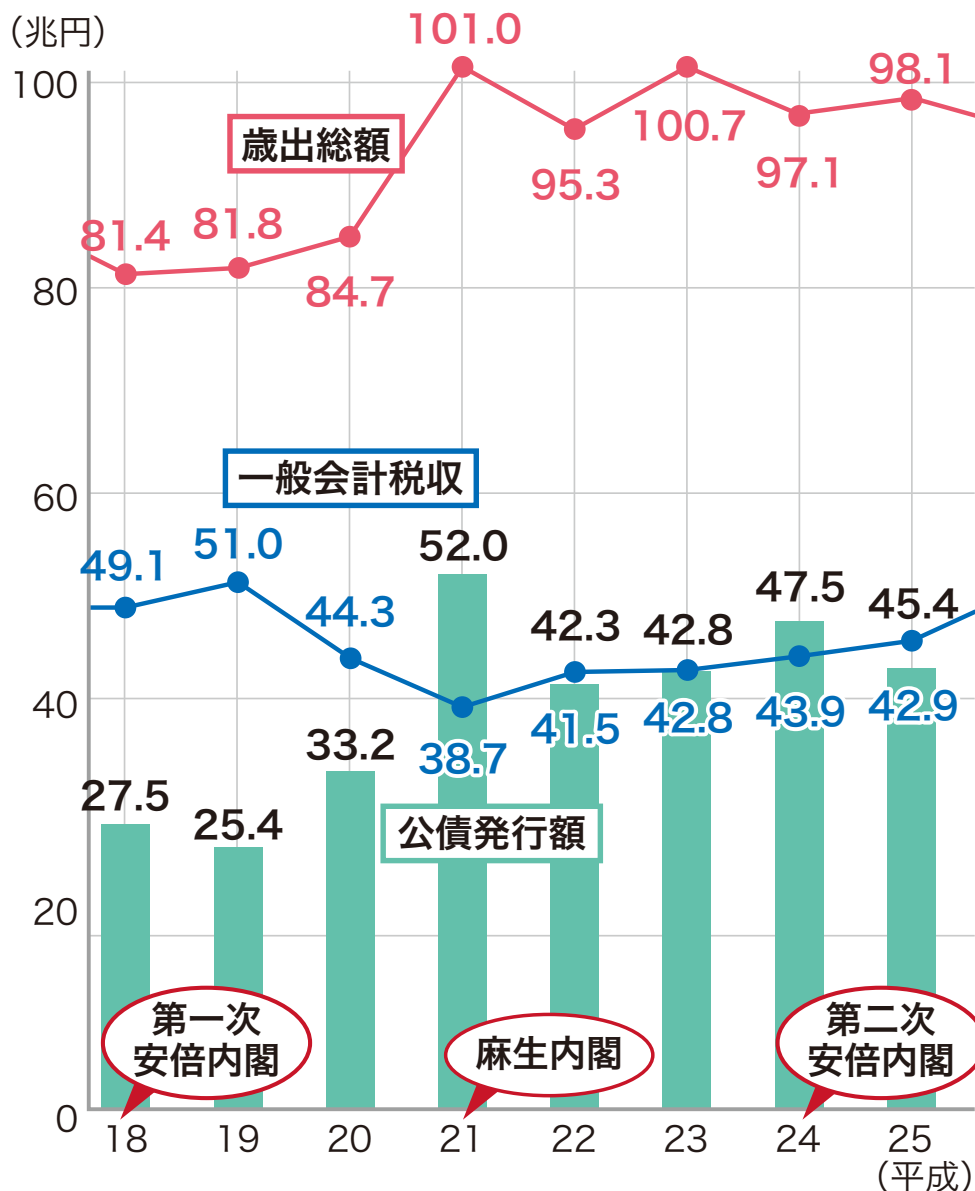
その上で社員に給与やボーナス削減の提案をするでしょう。民間では当り前の常識が国会では真逆になっているのです。

「身を切る改革」を前面に打ち出した衆院選マニフェストでは「国会議員定数3割削減、歳費3割カット」を掲げました。決して人気取りのパフォーマンスではありません。現に橋下市長は大阪市長の給与を就任直後に4割カットし、4年の任期ごとにもらえる約4000万円の退職金を廃止しゼロにしています。だからこそ職員給与の最大14%カットを実現できたのです。自らに厳しいからこそ他人にも厳しい改革を求められるのです。

まず国会議員の「身を切る改革」を行なった上で、国・地方合わせて27兆円の公務員人件費の2割削減を求めます。これによって増税なしに5兆円の財源を生み出します。大企業に合わせて決められる国・地方の公務員給与は一般職で平均6～700万円前後の水準となっており、退職手当や年金等も合わせて民間を上回る公務員人件費の2割削減は十分に可能です。5兆円といえば消費税2%分にあたります。これこそ「増税の前にやるべき改革」ではないでしょうか。

安倍総理は消費税率10%への引上げを延期しました。維新の党は安倍総理が決める前に消費税増税凍結法案を提出しており、2四半期連続のマイナス成長で景気後退入りという経済の現状を踏まえれば、消費税率引上げの延期に異論はありません。しかし財政再建への重い宿題は残されたままです。GDP比200%という先進国最悪の債務残高を抱える日本は財政破綻のリスクを常に意識せざるを得ません。安倍総理はそのリスクをどう回避するつもりなのでしょう。

50兆円の税収しかないのに100兆円の予算をばらまく赤字国債依存の放漫財政は安倍政権の下でも変わっていません。リーマンショック後の「麻生補正」でそれまで80兆円台だった予算規模が一挙に100兆円の大台を突破し、非常事態に対応するためだったはずの歳出膨張がそのまま続いています。安倍政権でも公共事業を5兆円から10兆円に倍増し、消費税増税分はほとんどそこに回された計算になります。社会保障の機能強化も財政再建もどこへ行ってしまったのでしょうか。（左グラフ参照）



このような巨額の財政収支のギャップを増税だけで穴埋めするのは不可能です。やろうと思ったら消費税率が30%に達しかねません。10%への増税でも延期せざるを得ないのに、そんな事になったら日本経済は破滅です。アベノミクスによる経済成長どころの話ではなくなります。増税一辺倒ではないやり方で財政収支の均衡を図る事が不可欠です。衆院選マニフェストでも紹介しましたが、ハーバード大のアルベルト・アレシナ教授の研究による「アレシナの黄金律」では、経済成長を阻害せずに財政再建を実現するには「歳出削減：増税=7：3」の割合がベストミックスとされています。そして、注目すべきは「歳出削減より先に増税を行なった国は必ず失敗している」とされている点です。日本で歳出削減は行なわれているで



有言実行、衆院選後の特別国会に「議員定数・歳費3割削減法案」を提出

しょうか？ 増税ありきでバラマキ財政を続け、アレシナ教授の言う「負けパターン」の典型になっているではありませんか。「アレシナの黄金律」の「7：3」の「7」にあたる歳出削減を、日本でも進めなければなりません。集票基盤に対する予算配分を力の源泉とする自民党にとって最も不得意な分野です。放っておけばすぐバラマキ財政で歳出膨張、そして増税の

負の連鎖が始まります。そこに「待った」をかけ、まず自らに厳しい「身を切る改革」を皮切りとして、時として痛みを伴う歳出削減を日本の未来のために断行していくのが私達の役目となります。

「積立方式への年金改革」「道州制による地方の自立」を維新の党が掲げているのも、それらが同時に国の歳出削減に繋がる改革であるからです。維新の党の綱領にあるように「自治・分権」「自立」「民権」をキーワードとして、甘えと歳出膨張を生む「お上依存」から脱却し、民間と地方が主体となった活力ある経済社会を作る。その目標を共有できる同志達とともに、日本の未来のために必要な改革を、勇気を持って進めてまいります。今年も宜しくお願い申し上げます。

## アレシナの黄金律



アルベルト・アレシナ  
ハーバード大教授

- 経済成長と財政再建の両立には 歳出削減：増税=7：3
- 歳出削減より先に増税を行なった国は必ず財政再建に失敗する

### 柿沢未途 PROFILE

柿沢未途（かきざわみと）／衆議院議員。維新の党政調会長

- 1971年生まれ。江東区立数矢小、麻布中・高、東大法卒
- NHK 記者として長野五輪報道に携わる。都議2期
- 2014年12月総選挙で東京15区（江東区）にて衆院3期目の小選挙区当選
- 2009年からの1期目では、260回以上の国会質問でナンバーワン
- 2014年5月には、NPO 万年野党「国会議員3つ星ランキング」で、質問回数・質問力の★★★★W3つ星議員★★★★として表彰される。



# そして統一地方選へ 維新の党の候補者公募中!



東京都議会議員  
野上ゆきえ

維新の党は衆院選の比例代表の投票先として江東区で43,417票のご支持を頂きました。江東区内では民主党に次ぐ第二党となる得票数であり、得票率20.1%は都内トップとなりました。衆院選前の政党支持率を考えれば驚異的とも言える急伸だったと思います。改革の流れを今年4月の統一地方選に引き継がなければなりません。すでに江東区では現職4人を含む5人の公認決定をしておりますが、新たな候補者の擁立をめざし

て維新の党東京都総支部による公募を続行中です。特に女性は現状、江東区の公認はゼロですので、ぜひ積極的なご応募をお待ちしております。同時に衆院選後も民主党や無所属の議員の皆さんとも幅広い連携関係を維持してまいりたいと思います。統一地方選後の江東区政において存在感を発揮できるよう改革勢力の結集を呼びかけてまいります。

## ■維新の党ラインナップ (1月1日現在)



鈴木きよと  
区議  
(現・3期)



いたつ道也  
区議  
(現・3期)



鬼頭たつや  
区議  
(現・1期)



伊藤よしひろ  
区議  
(現・1期)



吉田 要  
党支部政策委員  
(新)

## 苦しい時の 「仏」頼み

人生の岐路に立った時、必ず行く場所がある。江東区東砂の因速寺。亡き父、柿沢弘治が先祖代々の墓に眠っている。衆院解散5日後の11月26日、父の81回目の誕生日に墓前に手を合わせた。冷たい雨が天から降り注いだ。迎える選挙戦の厳しさを教えてくれているようだった。苦しい選挙を戦い抜き、投票日の朝、再び、因速寺に出いた。やるだけの事はやった、そんな気持ちだった。見上げると青空だった。「良く頑張ったな」と言ってくれているような気がした。



## 維新の党政調会長に再任

衆院選後の党執行役員会が12月23日、都内で開かれました。この席で橋下代表、松井幹事長から「都構想実現の天王山となる大阪での統一地方選の戦いに専念したい」と、代表、幹事長の退任の申し出があり、慰留の声もありましたが、了承されました。不退転の決意を強く感じさせた場面でした。

その結果、江田憲司氏が単独代表になり、幹事長に松野頼久氏、政調会長に柿沢未途、総務会長に片山虎之助氏、国対委員長に馬場伸幸氏という新人事が了承されました。政策責任者として新年の国会論戦に臨みます。

